

記事詳細

[記事一覧に戻る](#)

女性技術者が初の意見交換 (2015/02/03 1面)

現場環境の改善へ / 悩みや現状交わす 建協など



県建設業協会と県、九州地方整備局鹿児島国道事務所主催の建設業女性技術者・技能者意見交換会が1月31日、鹿児島市のレンブラントホテル鹿児島で行われた。行政および民間で働く1級土木施工管理技士や1級建築士などの資格を有する女性技術者10人が参加して、現場における現状や魅力とやりがいのある職場について意見を交わした。

今回のイベントは、県が2014年度から進める「建設業人材確保・育成事業(地域人づくり事業)」の一環として実施。県内の女性技術者を対象に実施するのは初。

冒頭、県建設業協会の種子島久志事務局長が「女性から見た県内建設業の現状や仕事上の悩み、取り組むべき課題などについて積極的に意見を交換していただきたい」と挨拶し、「これを機に女性技術者の入職の増加や建設現場の環境改善に生かしていきたい」と抱負を述べた。

意見交換会では、国土交通省等が定めた「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」や女性技術者を5年で倍増する計画などについて意見を交わし、「さまざまな施策が考えられているが、女性の視点で作られていない」「行動計画の“もっと女性が…”という表現は、いま頑張っている女性に失礼」と手厳しい意見が出された。

また、仕事上の悩みについては「ささいな一言で傷つくことがあった」「偏見の目で見られるのが辛かった」など当時の悩みを打ち明け、「今では男性と対等に評価され、やりがいを持って仕事に当たっている」と述べた。

意見交換会後は懇談会も開催。食事を囲みながら普段職場で相談できない女性技術者ならではの女子会トークに花が咲き、盛り上がりを見せた。

[更新:2015/02/03 No:667701]

